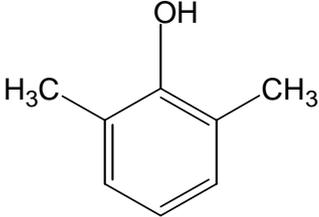


## 化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 48	官報公示 整理番号	3 - 521(化審法) 1 - 62(化学物質管理促進法)	CAS 番号	576 - 26 - 1
名 称	2,6-キシレノール 別名：2,6-ジメチルフェノール、 2-ヒドロキシ- <i>m</i> -キシレ ン、1-ヒドロキシ-2,6-ジ メチルベンゼン、 2,6-DMP		構 造 式		
分子式	C <sub>8</sub> H <sub>10</sub> O		分子 量	122.16	
市場で流通している商品(代表例) <sup>1)</sup> 純 度 : 99%以上 不純物 : 2,4-キシレノール 添加剤または安定剤：無添加					
物理・化学的性状データ 外 観：針状結晶 <sup>2)</sup> 融 点：49 <sup>2)</sup> 沸 点：203 <sup>2)</sup> 引 火 点：73 <sup>3)</sup> 発 火 点：文献なし 爆発限界：文献なし 比 重：d 1.13 <sup>3)</sup> 蒸気密度：4.21(空気 = 1) 蒸 気 圧：36 Pa(0.274 mmHg)(25 <sup>2)</sup> ) 分配係数：log Pow；2.36(実測値)、2.61(計算値) <sup>4)</sup> 加水分解性：加水分解を受けやすい化学結合なし 解離定数：pKa = 10.59(25 <sup>2)</sup> ) スペクトル：主要マススペクトルフラグメント m/z 122(基準ピーク, 1.0)、107(0.92)、77(0.42) <sup>5)</sup> 吸脱着性：土壌吸着係数 K <sub>oc</sub> ；460 <sup>2)</sup> 粒度分布：文献なし 溶 解 性：2,6-キシレノール/水；6.05g/L(25 <sup>2)</sup> ) ベンゼン及びクロロホルムに易溶、エチルアルコール、エチルエーテル及び四 塩化炭素に可溶 <sup>2)</sup> 換算係数：1 ppm = 5.08 mg/m <sup>3</sup> (気体, 20 <sup>2)</sup> ) 1 mg/m <sup>3</sup> = 0.197 ppm					

## 総合評価

### 1) 危険有害性の要約

本物質は、皮膚、消化器、呼吸器から容易に吸収され、フェノールに類似した毒性を示す。ヒトでの急性影響として、接触部位の皮膚、粘膜に腐食性を示し、中枢神経系への影響、消化器症状等の中毒症状をきたし、重篤な場合には精神錯乱、意識喪失を生じるとされている。また、本物質の誤飲による死亡例で、吐気、嘔吐などに加え、心臓、腎臓への影響がみられている。慢性影響については、吸入暴露で疲労や不眠、消化器症状、アルブミン尿症などがみられている。

実験動物では、急性毒性は強く、反復投与毒性で肝臓、腎臓、脾臓への影響のほか、心筋の組織学的変化がみられている。変異原性・遺伝毒性については、*in vitro* 試験で陰性の報告がある。発がん性については皮膚プロモーション試験を実施しているが、活性の有無は明確でない。生殖・発生毒性についての報告はない。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されにくいだが、大気中では速やかに分解されると予想される。また、表層水中では、直接光分解を受ける可能性がある。環境省のモニタリングデータはない。水圏環境生物に対する急性毒性は、甲殻類及び魚類に対しては比較的弱く、水圏生態系に対する影響は小さい。

### 2) 指摘事項

- (1) ヒトにおいて、腐食性を示し、急性ないし慢性影響で消化器症状、中枢神経系、心臓及び腎臓への影響がみられている。
- (2) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2001).
- 2) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S. National Library of Medicine(2001).
- 3) 13901 の化学商品, 化学工業日報社(2001).
- 4) KowWin ver 1.66, Syracuse Research Corporation(2001).
- 5) NIST Library of 54K Compounds(1998).